

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371500642		
法人名	有限会社アメニティホーム		
事業所名	アメニティホーム本郷 2F		
所在地	愛知県名古屋市長区高柳町323-1		
自己評価作成日	平成28年9月28日	評価結果市町村受理日	平成29年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様、一人一人の気持ちを大切に、個々の希望に添えられるよう努めています。 ・その時の場面にあった、声かけや見守りを大切に、ADL維持に努めています。 ・対面式キッチンで、調理中のおいを感じて頂きながら、毎食、出来立ての食事を召し上がって頂いています。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Jigvosyo_Cd=2371500642-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームでは、毎日の食事のメニューをその日の状況をみながら考えており、利用者の好み等にも配慮しながら調理が行われている。リビングの広さが限られていることもあるため、職員間で利用者一人ひとりが過ごす場所を考え、利用者がホームで快適に過ごすことが出来るような取り組みが行われている。ホーム1階のスペースには畑が確保されており、利用者が外に出て、畑の作物の様子を見たり、手入れを行う取り組みも行われている。職員体制については、ホーム施設長とホーム管理派の2名体制での運営が行われており、それぞれで役割分担が行われている。また、ホーム建物の構造上もあり、事務室がホーム玄関から外に出た場所にあることで、家族や職員が面談する際には、他の方と離れて話し合いができる環境であり、思ったことを率直に言ってもらい取り組みが行われている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年10月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「私たちは利用者様の気持ちを大切にします」 「私たちは利用者様の自立的生活援助を行います」 目に入る場所に貼り、定期的に張り替える。	法人の理念をホームの基本理念としており、ホーム内への掲示が行われている。また、管理者からも職員の支援で大切にしてほしい言葉をリビングに掲示しており、理念の実践につなげる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、地域の方と触れ合える行事等に参加できるよう努力しています。散歩の時などは、挨拶や声かけを積極的に行っています。	地域の祭事の際には、ホームからも寄付等で協力する等、地域の方との関係づくりに取り組んでいる。また、小学校から手紙が届く等、地域貢献につながる取り組みも行われている。	地域の方との交流については、地域の現状にもよるが、ホームからの継続した働きかけを行うことで、関係が徐々に深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の一員として自治会に参加できるよう努力しています。 地域行事と時間が合わない。 (利用者の身体レベルの低下)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回開催。利用者様、ご家族、民生委員、自治会長等の方々に参加していただけるよう、積極的に声かけをしています。 認知症への理解、地域への情報発信の場として定期的に開催するよう努めています。	会議の際には、ホームからの現状を報告する等、出席者からの意見等がホームの運営に反映できるように取り組んでいる。会議の際には、様々なテーマを掲げる取り組みも行われている。	会議の出席者が限定的な状況でもあるため、地域の方や家族への継続した出席者への働きかけを行うとともに、出席しやすい日時の確認等の取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市や区の窓口へ提出書類を持参した際に、ホームの情報を提供したり、情報を頂くなどサービスの向上に努めています。	区内の介護事業所が集まる連絡会にホームも出席しており、情報交換の機会につなげている。また、区の地域包括支援センターとも認知症サポーター養成講座や徘徊高齢者支援事業等への協力が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的に身体拘束は行いません。 ご本人の安全確保の為、やむおえない場合にのみ行ないますが、ご家族と話し合い同意を得ています。(同意書を頂いています) 施設内研修として「身体拘束について」カンファレンス時に話し合っています。	現状、利用者の状態に合わせた支援が行われているが、身体拘束を行わない方針で支援が行われている。建物の構造上の制約があり、フロアの入り口は施錠されている。また、職員ミーティングを通じた振り返りの時間を設ける取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修として「虐待防止」についてカンファレンス時、話し合っています。 身体的な虐待を防止するだけでなく心、プライドを傷つけない言葉遣いで対応するよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者様が必要とされた時、支援します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約内容の説明をしています。日頃から気兼ねなく話し、質問、相談ができるようにご家族ともコミュニケーションを取れるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が訪問された際に、気軽に話ができるようにコミュニケーションが取れるよう努めています。運営推進会議やクリスマス会、夏祭りなど施設の行事を実施し、コミュニケーションの取れる場所を作れるよう努めています。	ホームの行事の際には、家族にも案内を行うよう取り組んでいる。家族からの要望等については、ホーム施設長とホーム管理者の2人体制がつけられている。また、担当職員により、毎月の利用者の状況を報告する取り組みが行われている。	家族との交流の機会が限定的な状況でもある。ホーム内のスペースの制約があるが、可能な範囲でも交流の機会が増えることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時やカンファレンス時に対応しています。気兼ねなく話ができるよう、日頃からコミュニケーションを取るよう努めています。	現状、1～2か月の割合で職員会議が行われており、職員間で意見交換が行われている他、法人代表者もホームに来て、職員と面談を行う機会もつけられている。現場職員からの意見等は、管理者がとりまとめ、法人代表者に報告されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	仕事に対しての評価をし、ボーナスに反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	出来る限り参加できるよう努めています。施設内でも「勉強会」の時間を多く持つよう努力する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流は少ない。交流が持てるよう努力する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人からの相談事や不安に対し、注意深く耳を傾け、見守り、安心していただけるよう声かけするように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設を見学に来られた時や面会時などに、ご家族と話をすることで家族の思いや要望を受け止め、安心して任せていただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の都合が悪いときなどは、施設側で通院に付き添ったり、その時々々の状況に応じ対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様と職員の関係に留意しながら利用者様一人ひとりに合ったコミュニケーションを取りながらお互いの距離を近づけられるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催するよう努力し、施設の行事等にも参加して頂けるよう声かけし、コミュニケーションが取れるよう努めています。利用者様の1ヶ月の様子を毎月お手紙でお知らせしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の訪問、孫やひ孫の訪問も時々あります。訪問しやすい環境を作るよう努めています。友人との外出、その日の体調を見ながら週2～3日実施しております。	現状、利用者の状況もあり、馴染みの関係の方との関係継続が難しくなっているが、入居前からの利用者の友人が訪問し、交流の機会がつけられている。また、利用者により、家族と喫茶や買い物で外出している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの性格や趣味などを把握し、より良い関わりが持てるよう心がけています。トラブルなく、穏やかに過ごしていただけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者様が入院したときなどお見舞いに訪問しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時、ご本人の思いやご家族の思い、願い、希望を伺っています。 日々の生活の会話や表情、仕事からご本人の希望を察することができるよう努めています。	職員は担当制も活用しながら利用者の把握に取り組んでおり、毎月の便りの作成等を通じて、意向等が支援に反映できるように取り組んでいる。また、職員ミーティングの時間を通じた利用者に関する話し合いと情報の共有が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時「本人の生活史、暮らし方」など基本情報をご家族から聞き取りを行い把握する。他の施設を利用されていた方は、ケアマネージャーや事業所から情報を頂き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	モニタリングの際にその時々のご過ごし方など生活記録シートに記入してもらい(職員記入)現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様それぞれの現状の問題点と対策を検討し、ケアプランに反映。 日々の申し送りや職員間で問題点と対策を検討し、実施しています。	介護計画については、6か月での見直しが行われている他、変化に合わせた見直しも行われている。また、毎月の便りの作成等を通じて、利用者の現状を確認し、チェックするような取り組みも行われている。	介護計画の内容について、職員間で共有できるように日常の記録への反映を行っていき取り組みや家族との面談等の機会を増やす取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録に日々の様子や気づきを記入し、利用者様の心身の状態を全職員が把握できるよう努めています。 定期カンファレンスや申し送りなどで問題点と対策を検討し、実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問歯科や訪問マッサージ、理美容(訪問)や通院付き添いなどご本人、ご家族の希望に添えられるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員、自治会長ともに懇意にしているが、運動会や敬老会など行事への参加は積極的には出来ていません。(利用者様の都合や行事の時間帯が合わない為)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族の希望を大切にし、対応しています。	ホーム協力医がユニット毎に毎週訪問していることもあり、利用者の体調変化に合わせた対応も行われている。また、ホームに看護職員が勤務している他、週1回の訪問看護による利用者の健康チェックが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	診療ノート、往診記録を作成し、日々の生活の中での体調変化や気づきを記入しています。報告・連絡・相談をしっかりと行うよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに伺い、ご家族や医師から治療の経過など情報の交換や相談が出来るよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に説明しています。状況の変化に伴い、その都度ご本人、ご家族、主治医を交え話し合いを行います。	医療面での支援を受けながら、利用者の看取りを見据えた支援が行われており、ホームで看取り支援を行った経験もある。家族とも段階に合わせた話し合いが行われており、その過程では、ホーム協力医による説明も機会もつくられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年間計画に沿って実践しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回マニュアルに添って沿って実施しています。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。訓練を通じた消防署の協力も得られている。なお、ホーム内の備蓄品については準備を行っている段階である。	ホーム建物の構造上、地域の方の協力が欠かせないため、今後に向けた継続的な協力への働きかけに期待したい。また、備蓄品の確保にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の話をしっかりと聞き、それぞれに合わせた声かけや対応が出来るよう努めています。 同じ目線、同じ立場になって対応するよう努めています。	利用者の尊厳に配慮した文章を管理者により職員に示されており、リビングへの掲示も行われている。その上で、職員による言葉遣い等の対応で、管理者が気になった際には、注意を促しながら振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	選択が可能な場面、ティータイムの飲み物選びや余暇時間の過ごし方、入浴等、日常生活のあらゆる場面でその都度、声かけするよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その時々々の状態を見ながら強要はせず、ご本人の希望に添えられるよう努めています。 気の合う利用者様とのお散歩や喫茶など。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	機能面やご本人の好みを考慮しながら季節に合わせたものを用意しています。 化粧品の購入等もご本人の希望により購入しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食後の片付け(お盆拭き)などを出来る範囲内で行っています。職員も同じテーブルで同じものを一緒に食べています。	メニューについては、その日の状況を見て考えており、買い物で食材の調達が行われている。利用者も片付けを中心に参加している。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の配慮や、食事の際には職員も一緒に食事が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	生活記録の記入。 利用者様それぞれに合わせた食事量や食事形態で食事ができるよう努めています。検査の記入。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、利用者様の状態に応じて行っています。 必要に応じて歯科受診(訪問歯科)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者様それぞれの排泄の時間帯を職員全体で把握し、トイレへ誘導しています。紙パンツ、パットなどを使用している方も心身状態を見ながら、可能な限りトイレで排泄が出来るよう努めています。	利用者の身体状態に合わせた排泄に関する記録が行われており、日常的に職員間で意見交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。また、トイレの貼り紙を工夫することで、利用者自身がトイレに行けるような工夫も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	生活記録や排便チェック表で食べ物や水分の摂取量、排泄状態を毎日確認しています。(必要に応じて服薬)ラジオ体操や機能訓練など適度な運動を毎日実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	利用者様それぞれに合わせた温度調節や入浴剤を使用される方など出来る限り希望に応えられるよう努めています。	週4回の入浴日の中の週2回ペースで、午後の時間に入浴しているが、回数については希望に合わせた対応も行われている。浴室には重度の方にも対応した設備がつけられている。また、時々入浴剤を入れることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様の表情や心身状態を把握し、休息が必要と感じたら、お昼寝や自室で過ごす時間を持てるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	1週間分の薬を管理者、職員がセットし、服薬ミスのないよう管理しています。利用者様それぞれの薬事情報を職員全体で共有し、その時々心身の状態を把握して服薬支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様の得意、不得意を把握、考慮できる範囲内で日常生活のお手伝いをして頂いています。レク活動では、それぞれの好みにあった楽しみを感じていただけるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者様のその日の体調を把握し、散歩や外気浴を行うよう努めています。ご本人、ご家族からの希望があれば、喫茶店や買物に出かけたり、ご家族との外出や買物に心身状態を見ながら対応しています。	利用者にも合わせながらホーム近隣への散歩やコンビニへの買い物等の機会がつけられている他にも、建物から外に出て、畑の手入れを行う事もある。また、利用者の希望に合わせた喫茶等の機会もつけられている。	利用者の外出の機会が限られた範囲となっている現状があるため、今後の向け、可能な範囲で利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブルの原因になり得るため、金銭管理は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様からの希望があれば、必要に応じて対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	レク活動で作成した貼り絵や、花見や夏祭りなどのイベントの写真をリビングに飾っています。	リビング内の雰囲気はユニットにより異なっており、職員間で飾り付けや利用者の作品の掲示等の取り組みが行われている。リビングの広さが限られていることもあり、一人ひとりの居場所を考える等、過ごしやすい環境づくりにも取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う利用者同士がゆっくりお話ができるようソファを置いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真や旅行に行った際の写真を用意して頂き飾っています。読書の好きな方の部屋には、座りやすいイスを用意したり、TVの好きな方の部屋にはTVを用意して頂いたり、ご自分の時間が過ごせるよう努めています。	居室には利用者により様々な持ち込みが行われており、タンスや衣装ケース等の家具類やテレビが置かれてある。また、好みで本やぬいぐるみ等の持ち込みも行われている。また、利用者により布団を敷いて生活している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様それぞれの、そのときの状況を把握し、見守りながら出来ることをして頂いてます(掃除や洗濯)		